








# SDGs への取り組み：福祉心理学科

<b>目標</b>	地域に暮らすすべての人が孤立せず、その人らしく生活ができる共生社会づくりに貢献します。また、「心のケア」ができる対人援助の専門家を育成し、福祉と心理の視点から生活に関わる様々な分野について、教育・研究に取り組みます。
<b>授業での取組事例①</b>	<p><b>学生の実践による共生社会実現への取組</b>                  (担当教員)齊藤隆之 准教授 (科目名)ゼミナール (連携先)(株) アンドテラス/オノデラ百貨店 (実施時期)令和3年12月～継続</p> <p><b>【教育目標】</b>                  リスク社会における諸課題に対し、ソーシャルワークの視点をもって考察し、主体的に関わりを持つことで、実践科学としての理解を深める。また、共生社会実現へ寄与する。</p> <p><b>【実施概要】</b>                  令和4年度に開設した障害者就労移行支援事業所の準備段階から学生5名が参画し、5月の開設以降、毎週1回活動プログラムの考案、実施を行っている。また、子どもの貧困や居場所づくりとして、福島市内において子ども食堂の設置開設を学生主体で行っているほか、新たに令和5年に市内飯坂町で福祉サービス事業を開始する「オノデラ百貨店」と学生主体の連携を開始している(レモネードスタンド(小児がん支援)の企画進行中)。</p> <p><b>【学習効果】</b>                  就労移行支援事業所では、身だしなみを学ぶ「美ラボ」コミュニケーションを学ぶ「コミラボ」の企画から運営を行い、特に障がい者の就労と余暇活動について実践的知見を深めた。こども食堂については、令和4年度前期より「こども食堂にとどまらない」ことを意識して内容を検討してきた。地域ニーズと自分たちの思いの違いなど、各所への聞き取り等から学んでいる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #ffc107; padding: 5px; text-align: center;"> <b>2</b> 飢餓をゼロに   </div> <div style="background-color: #28a745; padding: 5px; text-align: center;"> <b>3</b> すべての人に健康と福祉を   </div> <div style="background-color: #e91e63; padding: 5px; text-align: center;"> <b>10</b> 人や国の不平等をなくそう   </div> </div>
<b>授業での取組事例②</b>	<p><b>他校等との連携による実践を通じた学びの質の向上</b>                  (担当教員) 齊藤隆之 准教授 (木村泰博 講師)                  (科目名) 各国家資格演習科目 (連携先) 一般社団法人福島県医療福祉関連教育施設協議会 (実施時期)平成29年度～継続</p> <p><b>【教育目標】</b>                  保健医療福祉の多職種連携事例を学生間で共有し、IPW(専門職連携実践)へとつなげる。</p> <p><b>【実施概要】</b>                  福島県医療福祉関連教育施設協議会の県北支部研修として、各校が連携し、保健・医療・福祉の各専門職を目指す学生同士が同一の事例について自身の学ぶ専門職の視点から支援を考えるIPE(専門職連携教育)に毎年参加をし、就職後のIPWに向けた学びとしている。</p> <p><b>【学習効果】</b>                  多職種連携について実際に学生同士が学び合うことで、人の生活や健康、福祉をどのように支えていくのか。あるいは連携にあたっての留意点やパートナーシップの結び方などについて理解を深めている。継続性のある地域生活の視点から、医療と福祉の異同を学ぶ場ともなっている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #28a745; padding: 5px; text-align: center;"> <b>3</b> すべての人に健康と福祉を   </div> <div style="background-color: #0056b3; padding: 5px; text-align: center;"> <b>17</b> パートナーシップで目標を達成しよう   </div> </div>
<b>研究での取組事例</b>	<p><b>児童生徒を対象とした予防的心理教育プログラムの開発</b>                  (担当教員)佐藤則行 講師 (実施時期) 平成29年～継続</p> <p><b>【研究目標】</b>                  小中高校の児童生徒を対象に、認知行動療法等の要素を盛り込んだ予防的心理教育プログラムを開発・実践し、子どもたちのメンタルヘルスの向上に寄与すること。</p> <p><b>【研究概要】</b>                  自己肯定感の向上、感情コントロールや表現方法の獲得(アサーション)など児童生徒の課題に合わせた予防的心理教育プログラムを実践し、その効果検証及び実践者の養成を行っている。</p> <p><b>【研究成果】</b>                  福島学院大学研究紀要第66集26-37に掲載された。</p> <div style="background-color: #28a745; padding: 5px; text-align: center;"> <b>3</b> すべての人に健康と福祉を   </div>
<b>学生の取組事例</b>	<p><b>手話による実践を通じた共生社会実現への取組</b>                  (活動団体)手話勉強会 (担当教員)日下輝美 教授                  (連携先)福島県聴覚障害者協会 (活動時期)令和4年11月～継続</p> <p><b>【活動目標】</b>                  手話を言語コミュニケーションの一つとして楽しみながら学ぶとともに、ネイティブスピーカーとの交流を通して実用性のあるものとして身につけ、共生社会実現へ寄与していく。</p> <p><b>【活動概要】</b>                  R3年時以降入学生カリキュラムの2年生前期配当「手話」を聴講した、3年生を中心に、毎週1回放課後の時間を活用して手話に触れる機会を設けている。のぎく祭での活動や発表などを通して手話や聴覚障害者がより身近になるよう活動を行っている。日本手話検定試験受験対策を行っている。</p> <p><b>【成果】</b>                  令和4年度から開始した活動であるが、手話通訳も視野に入れた資格取得の機運が高まっている他、福島県聴覚障害者協会との関係を密にし、実践的学びへとつながっている。</p> <div style="background-color: #e91e63; padding: 5px; text-align: center;"> <b>10</b> 人や国の不平等をなくそう   </div>

